



SUZUKI AIMS TO CONTRIBUTE TO THE SOCIETY
AND BECOME A COMPANY LOVED
AND TRUSTED THROUGHOUT THE WORLD

スズキ CSR・環境レポート2020

社会に貢献し、世界中で愛され、信頼されるスズキを目指して

スズキ CSR・環境レポート 2020 目次

はじめに

トップメッセージ	3
〈特集〉スズキ環境ビジョン2050	4

企業理念	8
CSR方針	10

環境への取り組み

環境全般	18
設計・開発・調達	37

生産・オフィスの取り組み	56
輸送	66
販売会社の取り組み	69

CSRの取り組み

品質への取り組み	75
お客様とともに	76
お取引先様とともに	83
従業員とともに	85
株主・投資家の皆様とともに	95

地域社会とともに	100
国内工場・技術センターの取り組み	110
国内販売代理店の取り組み	116
海外グループ会社の取り組み	117
スズキの財団活動等	127

コーポレートガバナンス

コーポレートガバナンス	131
-------------	-----

コンプライアンス体制・リスク管理体制	137
--------------------	-----

データ集

環境データ	146
会社概要	162

環境取り組みの歴史	164
会社データ	166

ガイドライン対照表

GRIガイドライン(スタンダード版)対照表	169
-----------------------	-----

編集方針

本レポートについて

「スズキCSR・環境レポート2020」は、スズキグループのCSR・環境に関する様々な取り組みについて紹介しています。ステークホルダーの皆様へ、当社の取り組みをより深くご理解いただくことを目指し、本年度は開示内容をさらに充実させました。

ウェブサイトのご案内

スズキ企業サイトでは、本レポートの全ての内容をHTML形式でご覧いただけます。
http://www.suzuki.co.jp/corporate/csr_environment/
同サイトでは、ESG(環境・社会・ガバナンス)の各項目に沿って情報にアクセスし易いよう、ESGインデックスを整備しています。

対象期間

2019年度(2019年4月1日から2020年3月31日の事業年度)を中心とし、一部、当該期間以前もしくは以後の活動内容も含まれています。

発行時期

2020年12月
(前回発行時期2019年9月、次回発行予定2021年夏予定)

参考としたガイドライン

環境省「環境報告ガイドライン2018年版」
GRI「サステナビリティ・レポート・スタンダード」等

記載内容

スズキ株式会社の情報だけでなく、国内、海外のスズキグループ会社の情報も含まれています。(文中に「関係会社」「販売店」「海外」等の記述がない場合はスズキ株式会社単独の内容です。)
本レポートに記載されている「国内工場」とは、スズキ株式会社の湖西工場・磐田工場・相良工場・浜松工場・大須賀工場の5工場を意味します。

注意事項

- ・本レポートに記載されているホームページアドレス(URL)は、予告なく変更されることがありますので、ご了承ください。
- ・本レポートに記載した予想や計画は、現時点で入手可能な情報及び過程に基づき当社が判断したもので、実際には、様々な要因の変化により大きく異なることがあり得ますことをご承知おき下さい。

発行者

スズキ株式会社 広報部
〒432-8611 静岡県浜松市南区高塚町300 電話 053-440-2030

トップメッセージ

はじめに、新型コロナウイルス感染症により亡くなられた方々に深くお悔やみを申し上げますとともに、療養されている方々にお見舞いを申し上げます。医療従事者の方々をはじめ、ライフラインの確保など、日々懸命に取り組まれている皆様に心より感謝申し上げます。感染拡大はいまだかつて経験したことのない事態ですが、当社グループをあげて、生産、販売、管理面での対応を迅速に実行してまいります。

また、当社の完成検査における不適切な取扱いにつきまして、株主の皆様には、多大なご心配、ご迷惑をおかけいたしましたこと、改めて心よりお詫び申し上げます。当社はあらゆる業務において法令遵守を徹底するため、全社的意識改革及び組織風土の改善に経営陣を中心に全社一丸で取り組んでおります。その中で、完成検査業務につきましては、現場の意見吸い上げ、検査員の増員による検査員の負担軽減、検査設備の改善等を進め、より確実に正しい検査を安定して行うための取組みを推進してまいりました。今後も引き続き、さらなる改善に向けた取組みを継続してまいります。

現在、自動車産業は大変革の時代を迎えています。このような変革期には、現在からの延長線ではなく、長期展望として10年、15年先に目指す姿を描き、そこから現在に遡って今後行うべきことを考え、未来を切り拓くことが必要です。長期展望に向けた活動のうち、当レポートで紹介するCSRの取組みについては、ESG（環境・社会・ガバナンス）の観点から、以下の通りさらなる強化を図っています。

「環境」については、気候変動を当社の事業に関連するリスクや機会として明確に認識しています。例えば、排出ガスやCO₂／燃費基準など様々な法規制の強化が進められる中で、これらの規制を遵守するための開発費用の負担増加は当社の業績に大きな影響を与える可能性があります。一方で、当社が得意とする小さなクルマは、生産に必要な材料やエネルギーが少なく、また使用時のCO₂排出量も抑えられることから、そうした技術の開発と普及に強みを持ち、これを継続して高めていくことで、当社は気候変動を大きな機会につなげていくことができると考えます。

2020年4月には、気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD)提言への賛同を表明いたしました。今後は、気候変動に対する開示の拡充にも努めてまいります。

さらに、環境問題に対する長期視点の方向性、2050年に当社がやりたい姿を示した「スズキ環境ビジョン2050」を2020年11月に発表しました。

「社会」については、ステークホルダーの皆様のご期待に応えるよう、安全・品質を第一に、地域社会への貢献、人への投資、人材育成、労働安全などに積極的に取り組んでまいります。

「ガバナンス」については、会社のあらゆる業務を網羅するようコンプライアンス体制やリスク管理体制を根本から見直し、内部統制を強化してまいります。

当社は2020年3月に創立100周年を迎えることができました。この100年、スズキは織機、二輪車、四輪車、船外機と多くの挑戦をしてきました。これらの挑戦があったからこそ、今のスズキがあります。株主の皆様、お客様、お取引先様、従業員、当社のあらゆるステークホルダーの皆様にご感謝、まさに「感謝。感謝。感謝の100年」でした。

今後とも長期的な展望に基づいて価値ある製品づくりとサービスの提供、企業価値の向上に努め、次の100年に向けてさらなる挑戦を続けてまいります。引き続き、皆様のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

スズキ株式会社 代表取締役社長
鈴木 俊宏

〈特集〉「スズキ環境ビジョン2050」を発表

スズキ環境ビジョン2050 「小さく、少なく、軽く、短く、美しく」

「小少軽短美」。これは、スズキが1990年代はじめて掲げるモノづくりの根幹を表す標語です。モノづくりにおいて、お客様へ提供する価値を最大にすると同時に、可能な限り「小さく」「少なく」、重さを「軽く」、費やす時間や距離を「短く」、また「美しく」することを意味しています。

スズキは、気候変動や水不足、資源の枯渇等といった地球規模の環境課題に対する取組みにも、「小少軽短美」の理念が当てはまると考えます。例えば、これまでも、スズキが得意とする小さなクルマは、その車体の小ささ・軽さから走行時のCO₂排出量が少ないだけでなく、製造に必要な資源も少なくでき、省資源にも貢献してきました。

スズキは、環境に対する理念や基本方針を定めた「スズキ地球環境憲章」のもと、「スズキ環境計画2020」を定め、「社会に貢献し、世界中で愛され、信頼されるスズキを目指して」グループ一丸となって環境保全の取組みを進めてきました。気候変動などの長期を見据えた環境への取組みが一段と求められる中、今年創立100周年を迎えたスズキは、次の100年も社会に貢献し続け、持続可能な企業であるために、2050年に向けた羅針盤となる「スズキ環境ビジョン2050」を定めました。

事業活動から生じる環境影響を「小さく」「少なく」し、地球環境に与える負荷を「軽く」していくこと。さまざまな環境課題の解決に費やす時間を「短く」すること。そして、地球がいつまでも豊かで「美しく」あること。「小少軽短美」の理念に基づき、スズキが描く未来の実現を目指していきます。



環境ビジョン2050とマイルストーン2030

当グループは、4つの環境重点テーマ「気候変動緩和」「大気保全」「水資源保全」「資源循環」に関して、2050年に向けて取り組むべきチャレンジ目標として「環境ビジョン2050」を掲げ、更にその目標実現に向かう道標として「マイルストーン2030」を設定しています。

●気候変動緩和

昨今、地球温暖化が要因とされる異常気象が頻発しています。こうした気候変動の影響を抑えるために、世界の平均気温上昇を産業革命以前から2℃未満に抑えることを目的に、今世紀後半に温室効果ガス排出の実質ゼロを目指す「パリ協定」が採択されました。

スズキは以前から、「小少軽短美」の理念に沿って、CO₂排出の少ない製品を少ないCO₂排出で作り続けてきましたが、いわゆる2℃目標の達成に向けて、より一層のCO₂削減に努めなければならないという課題意識のもと、スズキは、気候科学と整合した削減目標を掲げ、取組みを推進していきます。

気候変動の緩和のために

<スズキ製品から排出するCO₂>

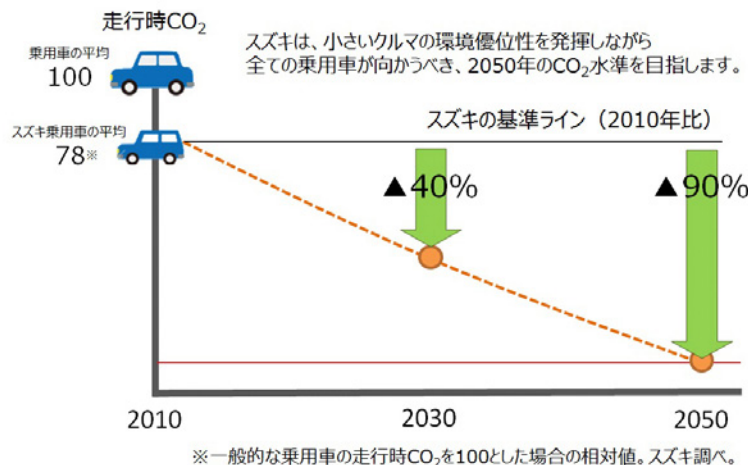
【環境ビジョン2050】

- 2050年までに、Well to Wheel※で新車四輪車が排出するCO₂「2010年度比90%減」を目指す

【マイルストーン2030】

- 2030年までに、Well to Wheelで新車四輪車が排出するCO₂「2010年度比40%減」を目指す

※Well to Wheel :自動車の走行時にテールパイプから直接排出されるCO₂に、燃料の採掘・精製、電気の発電段階で排出されるCO₂を加える考え方

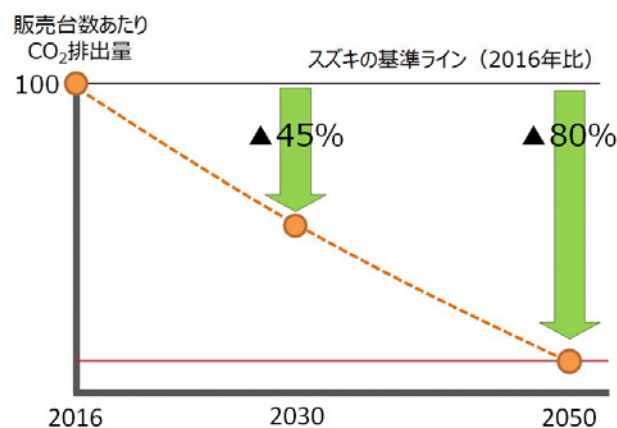
<スズキが事業活動から排出するCO₂>

【環境ビジョン2050】

- 2050年までに、事業活動から生じるCO₂を販売台数あたり原単位で「2016年度比80%減」を目指す

【マイルストーン2030】

- 2030年までに、事業活動から生じるCO₂を販売台数あたり原単位で「2016年度比45%減」を目指す



●大気保全

スズキでは、各国の状況に応じた低排出ガス車の導入など大気保全の取組みを進めてきました。インドや東南アジアなど新興国を主要市場とするスズキだからこそ、もっと貢献していきたいと考えます。例えば、スズキは、再生可能エネルギー由来の電力を、自分たちで発電する・調達するという活動を推進していくことで、地球全体でのCO₂排出量の削減はもちろんのこと、スズキが活動する地域での大気環境の保全に貢献していきます※。また、製品に関しては、ライフサイクルの視点を以て、販売国・地域のエネルギー・インフラ状況に適したパワートレインを投入していくほか、生産工程等から生じる揮発性有機化合物（VOC）についても削減を進めていきます。

大気環境の保全のために

【環境ビジョン2050】

- 2050年までに、事業活動や製品から排出される大気汚染物質を最少化する

【マイルストーン2030】

- 2030年までに
 - ✓ 事業活動における化石燃料の使用を削減し、再生可能エネルギーの利用を拡大する
 - ✓ クリーンな製品の開発を推進し、各国・地域の大気改善に貢献する
 - ✓ 生産や製品から生じる揮発性有機化合物（VOC）を削減する



※化石燃料の燃焼にともなって発生する硫黄酸化物や窒素酸化物は、大気汚染の要因の1つとされています。化石燃料によってつくられた電気の場合、発電段階で大気汚染物質が発生しています。こうした背景から、火力電力への依存が高い新興国では、大気汚染が深刻化しています。

●水資源保全

水資源は、全ての生命の源であり、同時に私たち人類の経済活動の基盤でもあります。しかし、人類が利用可能な淡水は地球上の水の0.01%とごく限られています。また、昨今の気候変動や人口増加によって、将来的に水資源の需給がひっ迫することが予想されています。特にスズキの主要市場であるインドや東南アジアは、急速な工業化によって過剰取水や水質汚染が顕在化しています。

こうした地域性を踏まえ、スズキは各拠点やサプライヤーにおける水リスクを評価し、リスクの状況に応じた水資源の管理を推進していきます。また、限られた水資源の持続的な利用を目指し、水使用量の多い生産拠点での取水削減、排水浄化の徹底を進めていきます。

水資源の有効利用のために

【環境ビジョン2050】

- 2050年までに、水環境への負荷を最小化し、持続可能な水資源利用を実現する

【マイルストーン2030】

- 2030年までに
 - ✓ スズキを取り巻く水リスクを特定し、全生産拠点で取水削減と排水浄化を実施する



●資源循環

世界人口の増加や新興国の経済成長にともない、世界中で天然資源の消費量が増加しています。このままでは、大量採掘による資源枯渇や、大量消費されて増加した廃棄物による環境汚染の深刻化を招く可能性があります。特に、電動車の駆動用二次バッテリーに使用されている希少金属等の有用資源は、将来的な資源の枯渇が強く懸念されており、循環利用することが求められます。また、使用済自動車の処理に関する制度構築が不十分な地域では、車両や部品の不法投棄・不適正処理につながりやすいため、危険物質の漏出による環境汚染や健康被害など、さまざまな問題が生じることが懸念されます。

こうした状況に鑑み、スズキは自社製品に係る取組みだけでなく、使用済自動車から再生資源を環境に負荷をかけず、安全に回収・処理する仕組み作りにも注力していきます。

循環型社会の実現のために

【環境ビジョン2050】

- 2050年までに、日本で培ったリサイクル技術やシステムをグローバル展開し、生産活動および製品から生じる廃棄物の削減と再生利用、適正処理を推進する

【マイルストーン2030】

- 2030年までに
 - ✓ 自動車リサイクルシステムのグローバル展開を目指す
 - ✓ 電動車の駆動用二次バッテリーのリサイクル、リビルド、リユースを推進する
 - ✓ グローバル生産拠点で廃棄物発生量を低減する
 - ✓ プラスチック梱包材を削減する



スズキ環境ビジョン2050の策定にあたって

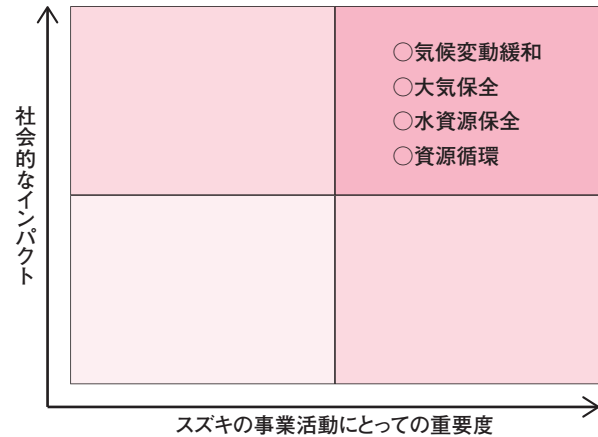
●策定プロセス

- ①スズキの環境への取組みの現状分析(マテリアリティの特定)
- 「社会に貢献し、世界中で愛され、信頼されるスズキを目指して」、環境に対する理念や基本方針を定めた「スズキ地球環境憲章」のもと、「スズキ環境計画2020」を策定し、グループ一丸となって環境保全の取組みを進めています。
 - 2019年には、これらの取組みについてステークホルダー(お客様、投資家等)にとっての重要度(社会的インパクト)と自社における重要度の2つの観点から整理し、社会へのより一層の貢献につなげるべく重要課題(マテリアリティ)を特定しました。
 - 重要課題の特定にあたっては経営層へのインプット及び意見交換を行い、グループ全体で取り組むべき課題であることを確認しました。

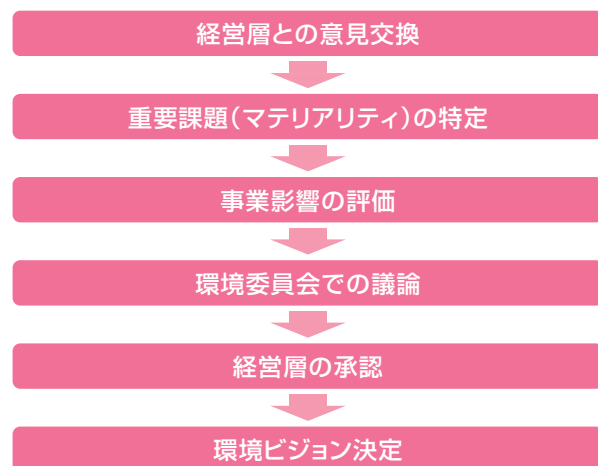
②スズキ環境ビジョン2050の策定

- 特定した重要課題(マテリアリティ)について、事業への影響評価、国内外の環境分野の政策動向、ステークホルダーからの中長期的な要請などを踏まえ、経営層が参画する環境委員会において議論を重ね、2050年に向けてスズキが取り組むべき環境課題を「気候変動緩和」「大気保全」「水資源保全」「資源循環」の4つに絞り込みました。
- 最終的に経営層の承認を得たうえで、これら4項目の具体的な取組み内容を「スズキ環境ビジョン2050」としてまとめました。

マテリアリティ分析



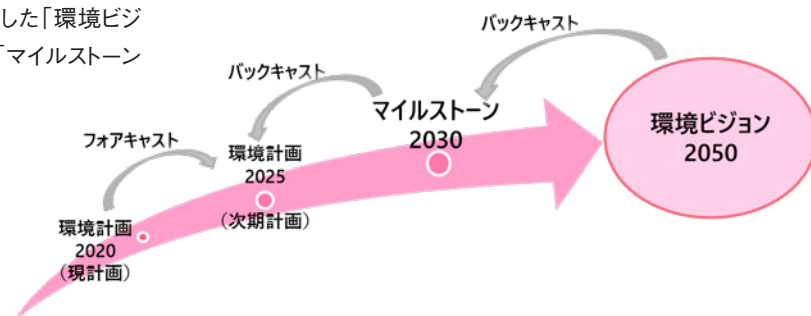
検討プロセス



●スズキの環境戦略の全体像

当グループは、将来のあるべき姿として策定した「環境ビジョン2050」からバックキャスティング(逆算)し、「マイルストーン2030」を置いています。

また、「マイルストーン2030」に向かう道筋を、5年ごとに「スズキ環境計画」として具体的な行動計画を策定し、活動を推進してまいります。



TCFD提言への賛同

スズキ(株)は、2020年4月、金融安定理事会により設置された「気候関連財務情報開示タスクフォース」が公表した最終報告書(以下、TCFD提言)への賛同を表明しました。今後、TCFD提言に沿って、気候変動関連の情報を開示していきます。



企業理念

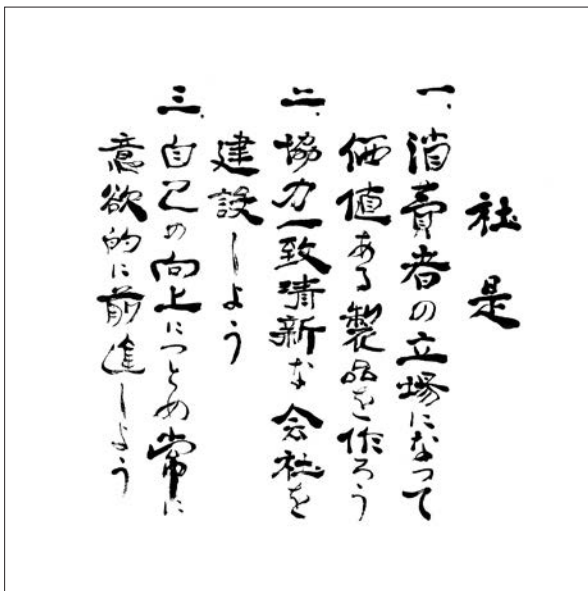
経営の基本方針

当社グループは、「消費者（お客様）の立場になって価値ある製品を作ろう」を社是の第一に掲げてきました。今後もお客様に喜ばれる真の価値ある製品づくりに努めていきます。

「小さなクルマ、大きな未来。」をスローガンに、お客様の求める小さなクルマづくり、地球環境に配慮した製品づくりに邁進いたします。法令遵守のもと、安全及び品質を第一とし、「小さく・少なく・軽く・短く・美しく」を徹底し、効率的な健全経営に取り組んでいきます。

社是

スズキは1962年3月にスズキグループの会社方針を示す「社是」を制定しました。



スズキグループ 社是（1962年制定）

- 一、消費者の立場になって価値ある製品を作ろう
- 二、協力一致清新な会社を建設しよう
- 三、自己の向上につとめ常に意欲的に前進しよう

それぞれ、企業の社会的使命を果たすことへの努力目標（製品づくり）、自分が所属する会社という組織に対する努力目標（会社づくり）、自分自身に対する努力目標（人間づくり）として、スズキグループの全従業員が理解し実践すべき三つの努力目標を掲げています。

社是の第一に掲げる「価値ある製品を」をモットーとして、スズキグループの全従業員が価値の創造者となるべく、日々努力を続けています。

小・少・軽・短・美

「小・少・軽・短・美」とは、「小さく」「少なく」「軽く」「短く」「美しく」を略したもので、長年にわたり、スズキの思想、文化の端的な表現として定着しています。

「小」はコンパクトにまとめる方が効率アップにつながり、「少」はムダは省き必要なことには最適に資源を配分し、「軽」は効率アップのためにスリム化を図り、「短」は意思決定と実行や報連相（報告・連絡・相談）をスピードアップするという意味があります。

さらに、「美」には全ての活動がお客様のためにあるという意味が込められており、性能、品質、コスト、信頼、安全・安心、コンプライアンス、全てを満たして初めてお客様満足が得られるという考えに繋がっています。

当社は、お客様の立場になって価値ある製品をつくるために、これからも引き続き、ものづくりをはじめとしたあらゆる業務において、「小・少・軽・短・美」を実践していきます。

スズキグループ行動指針

スズキは、2016年4月に、従来のスズキ行動憲章や行動基準等を見直し、新たな行動指針として、スズキグループの役員及び従業員が健全に職務を遂行するための「スズキグループ行動指針」を制定しました。

スズキグループがCSR活動を推進していくためにも重要な指針であり、この行動指針をスズキグループ各社に普及・定着させるため、携帯用冊子の配布や社内ホームページへの掲載、社員研修等を実施しています。

スズキグループ行動指針(抜粋)

お客様のために	(1) 価値ある製品・サービスの実現	スズキグループは、社是の第一に掲げる「消費者の立場になって価値ある製品を作ろう」の精神に則り、お客様の期待を超える製品とサービスを提供します。
	(2) 品質への取り組み	スズキグループは、お客様の安全・安心を最優先に考え、高品質でお客様に安心して使っていただける製品の開発・生産を行い、そのアフターサービスを提供します。 スズキグループは、万が一品質に関わる問題が発生した場合においても、お客様の声に真摯に対応し、問題を早期に把握して、徹底的な原因究明に基づく措置を講じ、お客様が引き続き安心して製品をお使いいただけるように全力を尽くします。
働きやすい 職場環境のために	(3) 人権の尊重	スズキグループは、各国・各地域の法令を踏まえ、人権に関する様々な国際規範を理解し、基本的人権を尊重します。
	(4) 労働安全・交通安全	スズキグループは、職場環境を整備し、安全な職場づくりに努めます。 スズキグループは、労働災害を発生させないための安全教育を徹底します。
	(5) 改善活動の推進と仕事の基本ルール遵守	スズキグループは、社員による職場改善のための創意工夫を奨励します。 社員からの改善提案は、評価して有効なものは採択し、横展開してグループ全体の発展に繋がります。 スズキグループは、仕事の基本ルールを策定し、社員に徹底します。
株主その他すべての ステークホルダーのために	(6) 法令等の遵守(コンプライアンス)	スズキグループは、独占禁止法等の競争関係法令、その他公正な商取引に関する法令、社会規範が国や地域によって異なる可能性があることを認識しつつ、それらを把握した上で、スズキグループの社員がそれぞれの国や地域の法令、社会規範を遵守するよう教育を徹底します。
	(7) 環境活動	スズキグループは、「スズキ地球環境憲章」に則り、美しい地球と豊かな社会を次の世代に引き継いでいくために、一人ひとりの行動が地球の未来を左右する大きな力を持つことを自覚し、地球環境保全に取り組めます。
	(8) 反社会的勢力との関係の遮断	スズキグループは、市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力及び団体との関係は一切遮断することを徹底します。

CSR方針

CSR推進体制

代表取締役及び関係役員等が出席する経営会議において、CSR活動における課題や方針、対策等について議論しています。経営と一体となった、実効性のある活動の推進を目指しています。

CSR活動におけるマテリアリティ(重要課題)の特定

スズキグループのCSR活動におけるマテリアリティ(重要課題)について、経営企画部門(広報、経営管理・IR、コーポレートガバナンス)や環境部門等のCSR主管部門が主体となり、以下の手順で特定作業を行いました。

CSR活動におけるマテリアリティの特定手順

Step 1	GRIガイドラインなどを基に課題を抽出
Step 2	抽出した課題についてCSR主管部門が整理及び議論し、スズキグループにとっての重要性を決定
Step 3	ESG投資家や環境NGOとのミーティングなどを通じて、ステークホルダーにとっての重要性を決定
Step 4	スズキグループにとっての重要性、ステークホルダーにとっての重要性の2軸から、マテリアリティの特定と優先順位を決定
Step 5	中期経営計画の内容との整合性を確認

特定したマテリアリティは以下のマトリックス形式で一覧にまとめました。このマテリアリティに基づいて今後のCSR活動に取り組み、定期的に見直しを行っていきます。

ステークホルダーにとっての重要性	非常に高い	・労働安全衛生 ・交通安全 ・環境保全 ・人権の尊重 ・サプライチェーン・マネジメント	・品質向上(開発・生産・販売・サービス) ・CO₂排出量の削減 ・環境技術の開発と普及 ・安全技術の開発と普及 ・コーポレートガバナンス・コンプライアンス ・安定した収益成長
	高い	・資源の有効活用 (原材料・エネルギー・水) ・ダイバーシティ ・教育支援 ・地域社会への貢献	・企業価値の向上 ・人材育成 ・安定した労使関係 ・危機管理の強化
		高い	非常に高い
スズキグループにとっての重要性			

なお、社内では新たな「中期経営計画」の策定を進めており、マテリアリティについても見直しの検討を進めています。



SDGsのゴール		スズキのCSR活動における関連項目	
3 すべての人に健康と福祉を 実現させる	あらゆる年齢のすべての人の健康的な生活を確保し、福祉を増進する	(環 境)環境計画2020 環境保全の取り組み(設計・開発・調達) (生産・オフィスの取り組み)	→P.19 →P.37 →P.56
		(社 会)安全への取り組み 二輪車における取り組み 安全・衛生及び交通安全に対する取り組み 国内工場・技術センターの取り組み 国内販売代理店の取り組み 海外グループ会社の取り組み	→P.79 →P.81 →P.85 →P.110 →P.116 →P.117
4 質の高い教育を みんなに	すべての人に包括的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する	(社 会)教育支援活動 国内販売代理店の取り組み 海外グループ会社の取り組み スズキの財団活動等	→P.105 →P.116 →P.117 →P.127
5 ジェンダー平等を 実現する	ジェンダー平等を達成し、すべての女性および女児の能力強化を行う	(社 会)ダイバーシティ(人材の多様性)	→P.89
6 安全な水と衛生を みんなに	すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する	(環 境)環境計画2020 (環 境)資源の有効活用(生産・オフィスの取り組み) (社 会)地域社会への支援活動 海外グループ会社の取り組み	→P.19 →P.59 →P.102 →P.117
7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに	すべての人々の安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する	(環 境)環境計画2020 CO ₂ 排出量の削減(設計・開発・調達) (生産・オフィスの取り組み)	→P.19 →P.37 →P.56
8 働きがい、経済成長、 雇用をみんなに	包括的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用を促進する	(社 会)お取引先様CSRガイドライン ダイバーシティ(人材の多様性)	→P.84 →P.89
9 産業、科学、技術イノベーションを みんなに	強靱なインフラ構築、包括的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る	(環 境)環境計画2020 (社 会)スズキの財団活動等	→P.19 →P.127
11 住み続けられる まちづくりを	包括的で安全かつ強靱で持続可能な都市及び人間居住を実現する	(社 会)福祉車両(ウィズンシリーズ) 国内工場・技術センターの取り組み 海外グループ会社の取り組み (ガバナンス)スズキの災害対策	→P.77 →P.110 →P.117 →P.143
12 つくる責任 つかう責任	持続可能な生産消費形態を確保する	(環 境)環境計画2020 資源の有効活用(設計・開発・調達) (生産・オフィスの取り組み) (輸送) (販売会社の取り組み) (社 会)お取引先様CSRガイドライン	→P.19 →P.46 →P.59 →P.68 →P.70 →P.84

SDGsのゴール		スズキのCSR活動における関連項目	
 13 気候変動に 適応する 気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる		(環 境) 環境計画2020 CO ₂ 排出量の削減(設計・開発・調達) (生産・オフィスの取り組み) (輸送) (販売会社の取り組み)	→P.19 →P.37 →P.56 →P.66 →P.69
		(社 会) 国内販売会社の取り組み 海外グループ会社の取り組み	→P.116 →P.117
 14 海の豊かさ を増やす 持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する		(環 境) スズキクリーンオーシャンプロジェクト 環境計画2020	→P.13 →P.19
 15 陸の豊かさを 守る 陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の促進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、並びに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する		(環 境) 環境計画2020 (社 会) 国内工場・技術センターの取り組み 海外グループ会社の取り組み	→P.19 →P.110 →P.117
 16 平和と正義 持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、全ての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する		(社 会) お取引先様CSRガイドライン	→P.84

TOPICS

スズキクリーンオーシャンプロジェクトを始動 — 世界初の船外機用マイクロプラスチック回収装置を開発 —

これまで継続してきた水辺の清掃活動が2020年に10周年を迎えたことを機に、「私たちに今できること」「スズキの船外機にできること」は何かを考え、スズキは海洋プラスチックごみ問題に焦点を当てた新たな取り組み「スズキクリーンオーシャンプロジェクト」を始動しました。

従来からの取り組みをさらに発展させるべく、このプロジェクトについて3つの取り組みの柱を打ち立てました。



スズキクリーンオーシャンプロジェクト シンボルマーク

【Project 1.】水辺の清掃活動を継続し、海洋プラスチックごみを回収する

スズキグループでは、水があることで私たちの生活が成り立ち、また我々のマリン事業も成り立っていることに感謝し、船外機が使用される海、河川、湖沼を中心に、社員及びその家族によるボランティアによる清掃活動を実施してきました。2010年に浜松市の佐鳴湖で1回目の活動を開始し、2回目以降は「CLEAN-UP THE WORLD CAMPAIGN」として世界各国に活動の輪を広げ、これまで参加国は26か国、参加者は延べ8,000人以上に及びます。10周年となる2020年以降も、世界各国で清掃活動を継続し、さらに発展させていきます。



世界各国で活動を実施(2019年撮影)

この活動は、環境省が世界的な海洋プラスチック問題の解決に向けて進めるキャンペーン「プラスチック・スマート - for Sustainable Ocean-」の趣旨と合致することから、2018年よりスズキもこれに登録し、その取り組みは環境省ホームページでも掲載されています。



<http://plastics-smart.env.go.jp/>

【Project 2.】船外機や部品の梱包資材からプラスチックを削減する

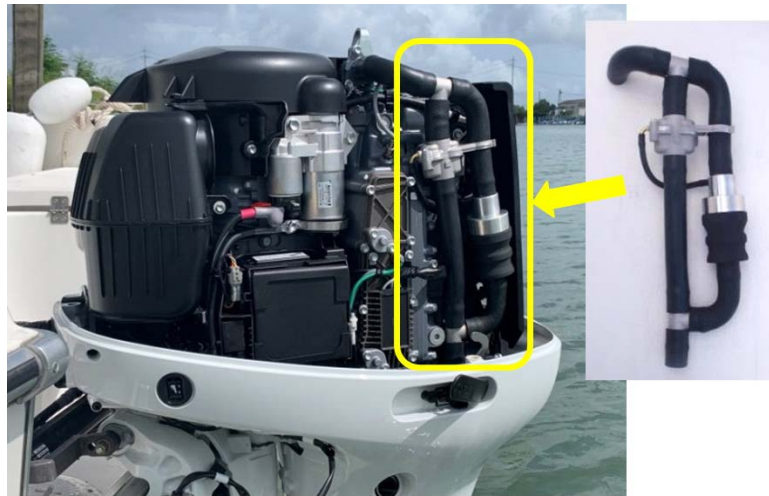
事業活動から生じるプラスチックごみを削減するため、スズキ船外機の製品梱包資材からのプラスチック削減に向けた取り組みを開始しました。2020年6月生産の一部製品の梱包に代替素材を試験的に採用し、市場評価の確認を進めています。

また、スズキ船外機の純正部品についても、梱包資材に使われているポリエチレン製の袋やフィルム類の一部を紙製素材に置き換え、2020年10月より出荷を開始しました。対応可能な梱包資材を全て代替素材へ置き換えた場合、年間約2.3トンのプラスチックごみの削減を見込むことができます。

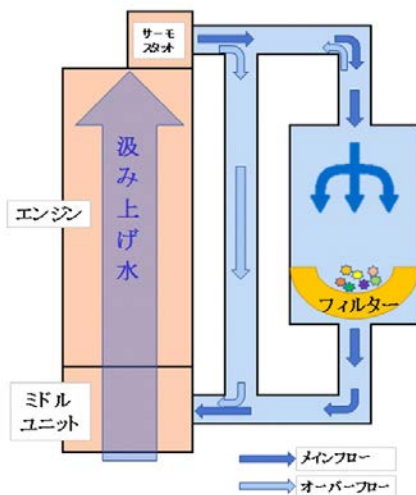


従来のプラスチック系素材(左)と紙製素材(右)の純正部品梱包資材

【Project 3.】 船外機用のマイクロプラスチック回収装置を開発する(世界初※)



マイクロプラスチック回収装置を取り付けた船外機

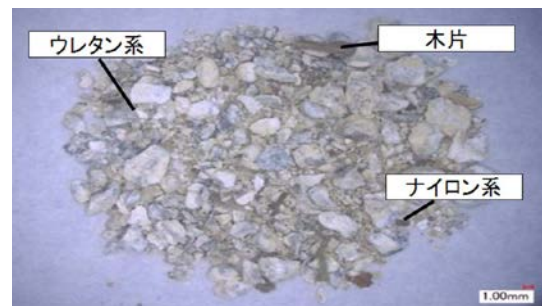


正しく回収されずに海に流れ込む大量のプラスチックごみは近年大きな環境問題となっており、さらにそれらが自然環境下で微細に破砕されたマイクロプラスチックは生態系に及ぼす影響が懸念されています。

そこでスズキは、船外機に取り付け可能なマイクロプラスチック回収装置を世界で初めて開発しました。船外機がエンジンの冷却のために大量の水をくみ上げながら走行し、冷却後にその水を戻す構造であることに着目し、回収装置は戻り水用のホースに取り付け可能なフィルター式としました。この装置を取り付ければ、走行するだけで水面近くのマイクロプラスチックを回収することができます。

※2020年10月1日現在、スズキ調べ。

この装置は簡単な作業で取り付けことができ、エンジン冷却後の戻り水を活用するため船外機の走行性能には影響しません。国内で実施したモニタリング調査では、フィルターに溜まった回収物に含まれるマイクロプラスチックを確認することができました。モニタリング調査は海外にも対象を広げて実施しており、さらに改良を重ねていきます。この装置は2021年からオプション用品として設定し、将来的には標準装備として取り扱うことも計画しています。



モニタリング調査で実際に回収したマイクロプラスチック



14 海の豊かさを
守ろう



12 つくる責任
つかう責任

「スズキクリーンオーシャンプロジェクト」の推進は、SDGs(持続可能な開発目標)が示す社会課題の解決に向けたスズキの具体的な取り組みであり、スズキ船外機がブランドスローガンに掲げる「THE ULTIMATE OUTBOARD MOTOR(究極の船外機)」を環境面においても追及していく姿勢を表しています。

これら3つの柱のもと、スズキは船外機ユーザーをはじめ、販売店、ボートビルダー、取引先、スズキグループ関係会社、従業員やその家族など、世界中のすべてのパートナーの皆様と力を合わせて、世界中の海をきれいにしていきます。

各ステークホルダーとの関わり

主なステークホルダー	考え方	対話・コミュニケーション方法
お客様	お客様の満足のために 人びとの暮らしに役立ち、心を満たす真の「価値」ある製品づくりのため、時代の足音に耳を傾け、人の心に寄り添いながら、技術と真心をもって挑み続けます。また、迅速で確実、気持ち良い販売・アフターサービス活動を心がけ、お客様の満足のためにベストを尽くします。	・営業活動（販売・アフターサービス） ・お客様相談室 ・お客様イベント ・安全運転講習会の開催 など
お取引先様	共存共栄を目指して 「価値ある製品づくり」のために、お取引先様と対等な立場で相互に協力し、信頼関係を構築するとともに、法令遵守・人権尊重・環境保全についての取り組みを実践し、パートナーとして共に繁栄できる関係を構築します。	・購買方針説明 ・調達活動 ・共同開発 ・マネジメントや実務担当者による意見交換会 など
株主・投資家の皆様	企業価値の向上を目指して 迅速かつ適切、公平な情報開示を推進していくとともに、株主・投資家の皆様との対話に努め、経営基盤の強化と企業価値の向上に取り組めます。	・定時株主総会 ・機関投資家向け説明会 ・個人投資家向けIRイベント ・各種報告書発行 など
従業員	働きやすく、働きがいのある職場づくり 従業員が自己の向上につとめ、常に意欲的に前進することができるよう、次のことに取り組めます。 ①従業員が安全・安心かつ健康に働ける職場づくり ②高い目標に挑戦する人材を評価・支援する体制づくり ③良好で安定した労使関係づくり	・安全衛生委員会 ・相談窓口 ・目標チャレンジ制度 ・自己申告制度 ・社内教育・研修プログラム ・労使協議会 など
地域社会	地域に愛される企業を目指して 積極的な地域社会とのコミュニケーション活動や社会貢献活動により、地域の一員としての責務を果たし、地域社会の発展に貢献します。	・国内外各事業拠点における地域貢献活動 ・教育支援活動 ・スズキ歴史館 など
環境	地球環境保全への取り組み 地球環境保全への取り組みは、経営上の最重要課題であることを認識し、持続的発展が可能な社会の実現に向けて「スズキ地球環境憲章」に基づき、全ての事業活動及び製品における環境保全を推進します。	・環境計画2020の策定・推進・報告 ・各種環境イベントの開催・参加 ・環境教育・講習会 など

人権に関する基本的な考え方

「スズキグループ行動指針」に定めている「人権の尊重」は、すべての企業活動の基本であると考え、CSR活動においてもその徹底を図っています。スズキグループは、人権侵害につながるあらゆる行為に加担する意思はありません。全てのステークホルダーの皆様とともに、人権尊重の取り組みを進めていきます。

（人権に関する取り組み事項）

- あらゆる形態のハラスメント行為の禁止
- 安全・健康な労働環境と良好な労使関係
- 雇用における差別の撤廃
- 児童労働、強制労働の禁止
- 人権侵害の原因となる紛争鉱物の不使用

CSRに関する外部評価

当社はESG(環境・社会・ガバナンス)の取り組みに関する情報を分かりやすく開示することを心がけ、ステークホルダーの皆様とのコミュニケーションを促進し、持続的な企業価値の向上を着実に進めています。

●FTSE4Good Index Series

ロンドン証券取引所100%出資のFTSE Russell社が開発した、ESGの観点から優れていると判断された企業の株式で構成された株価指数です。ESGに着目した投資ファンドや金融商品の作成、評価に広く利用されています。

FTSE4Good Index Seriesについて
<https://www.ftserussell.com/products/indices/FTSE4Good>



FTSE4Good

●FTSE Blossom Japan Index

日本企業に特化したFTSE Russell社のESG投資の株価指数です。指数は業種の比率が日本の株式市場と同等になるように構築され、銘柄の組み入れはSDGs(国連の持続可能な開発目標)を含む既存の国際基準を元に校正されたルールに基づきます。

FTSE Blossom Japan Indexについて
<https://www.ftserussell.com/products/indices/blossom-japan>



FTSE Blossom
Japan